

多彩な参加者の活発な議論が展開！ / ソーラーシェアリング推進連盟主催「第1回技術交流会」レポート

先だって当サイトでも紹介させていただいた、ソーラーシェアリング推進連盟主催による第1回技術交流会が、9月5日（水）強い勢力で上陸した台風21号の影響から一時は開催を危ぶまれながらも無事、盛況のうちに開催された。

当サイト記者も参加したその詳細は、そもそも非公開という前提のため（ ）、主催したソーラーシェアリング推進連盟Webからの引用という形で、当日の様態を紹介させていただく。

会員限定の催しだったこと、さらにはまだまだ発展途上にあるソーラーシェアリングのプロトタイプ的な要素や、行政系ワークショップの情報に関わる内容があることなどの理由による

<以下引用>

第1回技術交流会開催！ 活発な意見交換で大いに盛り上がりました!!

9月5日（水）、ソーラーシェアリング推進連盟主催による第1回技術交流会が開催されました。

前日に、強い勢力を保ったまま上陸した台風21号の影響で、一時は開催も危ぶまれましたが、会場のある東京・恵比寿は、台風一過の好天に恵まれ、無事開催することができました。

ソーラーシェアリングのシステム設計は、どんな方向を目指すべきか？



交流会は、連盟代表馬上丈司氏による挨拶からスタート。

「2015年ごろから自然災害、特に台風時による太陽光発電設備の損壊が問題となっています。ご存知のように、地上設置型については、[NEDO](#)を中心にガイドラインが策定されていますが、営農型発電（ソーラーシェアリング）については対象外となっています...」

実は前週（8月29日）、NEDOと[JPEA（太陽光発電協会）](#)主催で開催された、ソーラーシェアリングに関するガイドライン策定についてのラウンドテーブルに参加してきたことも報告した上で、

「我々は、今年から来年にかけて、ソーラーシェアリングの導入は急速に増えていくであろうと考えています。そんな中で、そのシステムについて、一体どんな方向を目指すべきか？ 認可が始まって5年、発展期のソーラーシェアリングのシステム設計は、どのような思想のもとに作られてきたか、具体てきな事例とともに知ること、お集まりいただいた皆さんの、忌憚のないご意見をお聞きしたいと思います」

と、当会の狙いについて説明しました。

ソーラーシェアリングならではの構造設計とは？

続いて行われた馬上氏の発表では、今年5月の制度改正を受けて、ソーラーシェアリング導入は増加している一方、すでに稼働している設備では、営農に問題を抱えている事例が増えていることに触れ、「営農と発電という2つの視点に立った=ソーラーシェアリングならではの構造設計」についてスライドを使って解説。導入の概況、制度改正の注目ポイントのほか、直近の視察から現状のソーラーシェアリング架台の類型化を試みて、来場者の大きな関心と呼んでいました。

セルフビルドによる独自架台の効果と実用性、これからの課題



次に発表を行ったのは、[ソーラーカルチャー](#)

代表の松岡顕氏。2012年に市民活動をきっかけにソーラーシェアリング発案者の長島彬氏に出会ったことで取り組みを始めた氏は、セルフビルドでソーラーシェアリング設備を作り始めました。資材調達、施工までほぼ全てを一人で行いつつ、「ソラカルシステム」という独自の「手動式パネル回転機構」を開発しています。

発表では、これまでほぼ5年間、約2MWに及ぶ導入実績から、その効果や実用性、そして課題までも具体的に開示して、来場者との質疑応答では、架台の素材、ウィークポイント、ソーラーシェアリングに適したパネルのサイズについてなど、活発な意見が交わされました。

環境にトコトンこだわるソーラーシェアリング



続いて発表したのは、[市民エネルギーちば](#)

代表の東光弘氏。提唱する「環境にトコトンこだわる」ソーラーシェアリングについて、単にキレイごとだけでなく「売り手よし、買い手よし、世間よし」と、All Winなソーラーシェアリングについて、農業との調和、地域や自然との調和、廃棄コストの削減など、自身が取り組んでいる事例をサンプルとして、具体的に発表しました。

特に印象的だっ

たのは、昨今、報道などを中心

に目にすることも多くなった「[SDGs](#)」や「[Re100](#)

」との高い親和性について。こちら事例を踏まえた解説で、熱心にメモをとる来場者も多く見られました。

トークセッションによる来場者との意見交換



最後は、発表者3人と来場者を交えた、当会のメインともいえるべきトークセッション。各々の発表後に設けられていた短い質疑応答の時間にも、来場者の積極的な発言が目立ちましたが、このセッションでは、より活発な意見のやりとりが生まれていました。

特に冒頭で、馬上氏が来場者の属性について尋ねたところ、営農者、メーカー、EPC、発電事業者など、多岐にわたる参加者であることが判明。それぞれの立場から、より具体的・現実的な意見が多く聞かれて、第1回開催にも関わらず、大いに充実した内容となりました。

来場者同士の活発な意見交換





トークセッション終了後の懇親会にも、多くの来場者が参加。それぞれの熱い想いや疑問などをぶつけ合う姿がそこで見られました。

大成功だったからこそ、継続的な議論を

繰り返しになりますが、第1回目の開催となった技術交流会は、非常に活発な意見交流を持って、大成功で終わったと言えるでしょう。

しかし、これを単発のもので終わらせることなく、継続した取り組みとして、今後のソーラーシェアリングの設備設計ガイドラインの策定に向けても、有意義に機能するものにしなければなりません。

今回参加が叶わなかった皆様も、ぜひ次回開催の折には、ご参加いただきますようお願いいたします。

<引用ここまで>

なお、当会は連盟会員限定の催しだったが、特別に取材許可をいただいたので、主催のソーラーシェアリング推進連盟代表理事である馬上氏にコメントをいただくことができた。

「今回は、少人数ではありましたが、非常に多彩な方々に集まっていただき、文字通り混じり合っ
て意見交換ができたという意味で、第1回目の交流会としては、成功だったのではないかと
思います。今まで聞けなかったことや、わからなかったことが聞けたという多くのご意見も
いただきました。こうした取り組みは、続けていかなければ意味がないと思いますので、ぜひ
2回、3回と開催を重ねて、より深い交流の場として作り上げていければと思います。次回は、
農業をテーマに開催したいですね」



(取材協力・記事提供：ソーラーシェアリング推進連盟)